

日本軍「慰安婦」像と姉妹都市解消

クローズアップ

吉村洋文大阪市長は昨年末、60年間続く両市の姉妹都市関係を解消すると表明しました。米市民団体が建立した日本軍「慰安婦」像をサンフランシスコ市が市有化しようというのが理由です。なぜ「慰安婦」像が姉妹都市解消につながるのか。浮かび上がるのは、アジア太平洋戦争で日本軍が引き起こした「慰安婦」問題の歴史をゆがめる吉村市長の言動が国際社会からもかけ離れていることです。

(隅田哲)



サンフランシスコ市に建立された日本軍「慰安婦」像 © 絹川知美

吉村市長の言い分は、「慰安婦」像の碑文を「不確かで一方向的な主張」などとし、サンフランシスコ市が像を市有化したことで「信頼関係が損なわれた」というものです。

像ができるわけ

碑文は「日本帝国軍によって性的に奴隷化された」女性たちの苦しみを証言すると記しています。「不確か」なことではありませ

ん。旧日本軍は侵攻したアジア太平洋地域の先々で「慰安所」を設置し、管理・運営しました。そこに女性たちを拘束し、兵士相手の性行為を強制しました。この事実は一〇九三年の河野官房長官談話で日本政府も認めています。

「慰安婦」像がつくられるのは、「慰安婦」の事実をなかつたことにしようとする日本の政治家たちの言動が絶えないからです。彼らの言動は性暴力から女性の人権を守るといふ国際世論への侮辱です。こう語るのは日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワークの中川加代子さんと方清子(パン・チョンジャ)さん。「慰安婦」像をつくるサンフランシスコ市民と交流してきました。サンフランシスコ市では、2013年に「慰安婦

国際世論かけ離れた大阪市長の言動 問われる侵略否定の安倍政権

制度は必要だった」などとする橋下徹大阪市長(当時)の発言に対し、サンフランシスコ市議会が撤回を求めた決議を全会一致で採択しました。市民による「慰安婦」像設置の動きが起ると橋下氏は「懸念」の書簡をサンフランシスコ市長あてに再三送付。15年末に就任した吉村市長も同じ立場から同市長あての書簡をくり返し送り、自分の主張が聞き入れないと姉妹都市解消をふりかざしてあたかも日本軍「慰安婦」が事実でないかのような議論を振りまいてきました。

このような言動の背後に、日本が行った侵略戦争の歴史を否定する安倍晋三首相の存在があります。サンフランシスコ市の「慰安婦」像市有化について、安倍首相は「極めて遺憾」とのべ、同市に市有化しないよう日本政府として申し入れたと答弁しました。(昨年11月21日の衆院本会議)「強制連行はなかった」とする安倍政権のもとで日本軍「慰安婦」の強制性を否定する勢力の動きが強まっています。このなかで国連や国際機関から日本政府に対する是正勧告がくり返し出され、米下院や欧州議会などからも抗議の決議があげられています。吉村市長たちが事実をゆがめる言動をすればするほど、国際社会から歴史の真実を伝える声が上がります。「慰安婦」像建立につながっているのが実際のところでは、

不正義への怒り

「慰安婦」問題の解決にとりくむ「女たちの戦争と平和資料館」事務局長の渡辺美奈さんはいいます。「今、世界で起きてきているのは「慰安婦」の事実を否定するという不正義への怒りです。安倍首相や橋下氏たちが加害の事実を認めて、「慰安婦」被害者の記憶を後世に伝える姿勢を見せていたら、このような問題にはならなかったはずで